

# つづきナビ ⑤自由が丘の歴史 散策ガイド

2023/5/24 kumagai

日時：5月24日（水）9：30 集合 場所：自由ヶ丘駅 正面口（自由の女神像前辺り）

- ・中川 8:44~8:46 センター北 8:51~9:03 日吉 9:09(4番線 東横線急行・森林公園行)~9:18 自由が丘
- ・中川 8:49~8:51 センター北 8:55~9:06 日吉 9:14 (4番線 東横線特急・小手指行) ~9:25 自由が丘

散策ルート：①自由が丘駅（東急東横線）⇒②熊野神社（トイレ）⇒③谷畑弁財天 ⇒④立源寺  
⇒⑤中根公園（長屋門）（トイレ）⇒⑥呑川緑道 ⇒⑦大岡山駅（東急大井町線）  
⇒⑧東京工業大学（博物館）（— 赤色線を歩きます 距離3キロ）



引用：目黒区 緑の散歩道 呑川と自由が丘コース図

今回のコースは、1 ページ目の **赤色の経路**、自由が丘駅から大岡山駅まで街並みを歩きます。大岡山駅で一旦解散とします。東京工業大学 100 年記念館（博物館）へ向かう方は、運営委員が案内します。3 キロぐらいですが、自由ヶ丘～大岡山の名の通り、緩やかな坂が多いコースです。

自由が丘一帯は、かつては衾村（ふすまむら）の谷畑と呼ばれ、竹藪と大根畑 そしてわずかな田んぼの 60 戸ばかりの武蔵野の寒村でした。

自由が丘駅名の由来：昭和 2 年(1927 年) 東横線が開通、はじめは九品仏駅としていました。昭和 4 年(1929)大井町線が開通、同名の駅が隣にでき改称が必要になったが、住民の強い要望により「襖駅」ではなく、自由ヶ丘学園の「自由ヶ丘」から自由ヶ丘駅となりました。

自由ヶ丘学園(昭和 3～12 年)は、黒柳徹子の小学生時代を描いた小説「窓際のトットちゃん」の舞台となった「トモエ学園」の前身です。跡地に「ともえ学園記念碑」がありましたが、イオンモール(2023 年秋予定)の建設工事中で、商店会で別の場所に一時保管中とのこと。

## ①自由が丘駅

集合場所の「自由の女神像」：戦後（昭和 20 年）自由ヶ丘の復興は、焼け跡にできたヤミ市に始まります。自由が丘駅前は、穀物・野菜・果物・魚など数十件の露天商が並びました。昭和 21 年、地域の人々が知恵を集め駅前ロータリーができ、昭和 36 年彫刻家沢田正広氏、（石井猷筆、自由の女神像「蒼穹」を刻む）建立されました。



自由が丘駅 正面口



自由の女神像「蒼穹」

## ②熊野神社

自由が丘、緑が丘一帯の旧谷畑を中心とする地域の氏神様。室町時代に熊野信仰が、東国武士や農民の間で起こり、四方（和歌山県）の熊野を極楽浄土になぞらえた。江戸時代に入り熊野神社本宮の分霊をいただき、祀ったのがはじまりとされています。

熊野神社へは、自由が丘駅正面口から東方面（渋谷）自由ヶ丘デパート通りを進みます。途中から街灯に、熊野神社表参道を示す紫色の垂れ幕が見えます。



自由が丘デパート通り



熊野神社表参道垂れ幕



熊野神社 表参道鳥居

## 熊野神社 境内



熊野神社 社殿



伏見稲荷神社



自由が丘誕生の祖

伏見稲荷神社：農業の神様として、関東の旧家では屋敷神として祀られています。稲荷堂の中には、人々の願いがこもった十数点の絵馬が掲げられています。

自由が丘誕生の祖：栗山久次郎の像。碑衾村長、衾西部耕地整理組合長などして地域に貢献した。中でも、地域の発展を願い「碑衾町大字自由ヶ丘」と改名を決断した。現在の自由が丘の礎。

### ③谷畑弁財天

自由が丘一帯（碑衾村大字衾大字谷畑）には清泉が湧き出しており、住民が多大な恩恵をえていたことから、弁財天は「水の神」「財宝の神」と崇められた。信仰者に無限の恵を与えると。

谷畑弁財天へは、熊野神社の表参道（自由が丘デパート通り）に戻り、東方面（渋谷）に進み、右側にイオン店がある交差点を右折し、東横線のガード下（線路）の手前に、弁財天のガイド札が立っています。ガイド札が立っている狭い路地に入り進むと、突き当りが谷畑弁財天です。



右側にイオン店 右折



谷畑弁財天 ガイド札



谷畑弁財天

### ④立源寺（りゅうげんじ）

日蓮宗の寺院、山号を長昌山といい、甲州身延山の末寺です。碑文谷法華寺の日蓮上人により江戸時代（1624年）に開かれました。本堂には、三宝尊像（御首題・多宝如来像・釈迦如来像）が安置されています。2月には、水行が行われます。

立源寺へは、谷畑弁財天のガイド板のところまで戻ります。右側の東横線のガード下をくぐるように進みます。最初の信号機のある交差点（緑が丘小学校）を左折し緩い坂を大樹を目指し上ります。大樹（森林）の下が立源寺です。



東横線のガード下進む



最初信号機の交差点左折



大樹を目指し坂を行く

## ⑤中根公園（岡田家 長屋門）

江戸時代、この辺り一帯の名主だった岡田家の長屋門と敷地跡に作られた公園です。

中根の地名は、江戸時代、目黒六力村の一つ、衾村の小字名で、その中央にある根柄であったことに由来しています。「根」とは、台地の縁部、すなわち尾根から平地に届こうとするところであり古くから住居に適し貝塚もありました。起伏のある斜面には、木製アスレチック遊具があり、森の中を走り回る子どもたちに大人気です。

中根公園へは、立源寺の山門を左折し道なりに進むと白い屏が見えて来ます。その先が岡田家の長屋門です。中根公園は、長屋門の前を進み最初の信号機のある交差点（中根小学校）を左折するとすぐに中根公園の入口です。



立源寺を出て左側を進む



岡田家 長屋門



中根公園 入口

## ⑥呑川緑道

呑川の上を緑道として整備されました。呑川は、世田谷区の新町を源として、大田区の大森南から東京湾にそそいでいます。上流は、かんがいの水源として、下流は小舟の水路として使われていました。近年、汚れにより清流復活が行われ、平成7年（1995年）から新宿区の落合水再生センターで浄化された水が流されています。

呑川緑道へは、中根公園の下側の入出口を右側に道路を進み、道路を横断（マンション中根ピラパークの横）して50メートルぐらいで呑川緑道です。



中根公園 下側入出口



マンション間を進む



呑川緑道に突き当たる

## ⑦大岡山駅

大正12年（1923年）目蒲線開通により開業。1998年駅の地下化完成し現在に至ります。駅周辺には、東京工業大学、東急病院、東急ストア、郵便局があり地域の中心です。

大岡山駅へは、呑川緑道を進むと大井町線の線路に突き当たります。右側が、**緑が丘駅**（駐輪場）、です。緑が丘駅（駐輪場に入り）方向に、10メートルぐらい進むと、右側に東京工業大学の入口（緑が丘）がありますので、その門（小さい門）を入り、東京工業大学校内の道を通りぬけます。

右手に大井町線の線路、左手に東工大の研究棟やテニスコートを見ながら300mほどで大岡山駅です。大岡山駅の駅ビルは東急病院になっています。（東京工業大学校内は一般人通行可です）

呑川緑道から大岡山駅へ



呑川緑道突当り右 緑が丘駅



東京工業大学（緑が丘駅口）



東京工業大学校内を進む

### ⑧東京工業大学

明治政府が、工業立国を模索する中で、専門技術の素養をそなえた優れた人材を育成する目的で設立されました。最初の工業教育機関である東京職工学校を母体としています。

現在は、伝統的な理学系、工学系に加え、情報系、バイオ系、社会・経営系をカバーする理工系総合大学となっています。（1200名/学年、1500名/院学年）

100年記念館（博物館）には、東京工業大学の教育や研究に活用された貴重な機器や・物品など展示されています。（入館料は無料です。）

- ・B1（地下1階）特別展示室
- ・2F（地上2階）展示室



東京工業大学校内 案内板



大岡山駅 ロータリー



東京工業大学 正門



東京工業大学 100年記念館  
（博物館）



東京工業大学のヒストリー



工業の基礎を作る



先端技術研究 展示



先端技術研究 展示



先端技術研究 展示